

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
毎月1回1日発行  
定価1部15円  
印刷所 田辺印刷株式会社  
上田市原町 TEL1492

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
発行所 社団法人千曲会  
長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
振替 長野 6243・東京43341  
電話 上田1215(代表)1218(直通)

## 最近の繊維化学工業

繊維学部大平研究室 大屋 正 尚

一頃前までは、工業的に利用されている高分子といえば、天然物が主であり、その天然物の中で繊維が主であった。

天然物を溶解再生させた再生人造繊維と天然物を基体としてこれに化学反応を行った、セルロイドとか、又合成高分子化合物では、ペークライトと尿素樹脂位が工業的に利用されているに過ぎなかった。

ナイロンが発見されるのと前後して、多くの合成高分子原料が開発され、工業化された。その当時は繊維原料となり得る合成高分子化合物の開発に重点が置かれたようにも見えた。

そしてナイロンの工業生産が完成してみると、それには基礎から応用に至る化学の粋を集め、いや機械の分野に亘る広範囲の力によっていたことが分った。その後更に多くの合成高分子化合物が発見され、或いは更に工業化されて、その成品が各分野に著しく発展し、その原料から成品までの工業が化学工業の重要な部分を占めるに至った。

従って繊維化学と云っても、基礎的な物理化学、理論有機化学から高分子化合物の合成、重合、これを工業的に生産するための化学工学から最終製品にする成型着色、その生成物の解析と極めて広範囲になった。

だから“最近の繊維化学工業”何と云うとてつもない題にすれば、数十人の方々の力でも書いても尽せないと思うので、ここでは最近の合成繊維やその原料、及び新しいプラスチック等について断片的に述べてみた。

### ナイロン

ナイロンに就いては今更述べるまでもない。我国で最も多く衣料用として量産されているナイロンは、ε-カプロラクタムを縮重合させて作るナイロン6、である。これは現在石炭酸を原料として数段の化学反応を経て作られていた。最近に至り、イタリアのスニャピスユサ社に於てこの新しい工業的方法が完成した。所謂SNIA法といわれるのがそれである。これは、トルエン→安息香酸→ヘキサヒドロ安息香酸→ε-カプロラクタムの反応行程で作られる。トルエンは環状化合物を多く含む石油のクラッキングに際し副成するし、そうでなくても今迄より相当安価に生産されると云う。我国で各社競って技術導入しようとしている様である。その他にも今迄の行程の部分的改良とでも云おうか、シクロヘキサンにニトロソクロライドと共に紫外線を照射させ行程を省略する方法等がある。化学反応に光線や放電を利用する事は実験室的には比較的容易でも工業的には多くの問題があった。だが我国の某社では近く工業化に着手すると云われている。

### アクリルニトリル

アクリルニトリルはアクリル系合成繊維の主要原料であるとして我国でもアクリル系合成繊維は数種類市販されている。

生産過剰と云われながらも徐々に伸びて来ている。

アクリルニトリルを工業的に生産する方法は、アセチレンと青酸から直接合成する方法が主であった。

最近この他の合成法のソハイオ法なるものが登場した。

それは、プロピレンとアンモニアと酸素を、モリブデン酸着

鉛を触媒として合成する方法であり、この方法によると、いやな青酸合成の行程を省略出来る値段も2割方安く出来るといわれる。我国に於ても技術導入が行なわれている。

これによりアクリル系合成繊維の価格は低落するに違いない。

### ポリエチレン

最近我々と急に親しくなったポリエチレンは、エチレンを重合させて作ることは周知の通りである。我国に於いては昭和33年にこの工業化が完成した。従来エチレンは石油精製の廃ガスから得られていたが、ガソリン需要増大と共に接触分解装置が設置され大型化し得られる量も多くなったが、更にエチレンを得る目的でナフサの分解も行なわれ、この際に副生するプロピレンと共に我国の重要な化学原料となった。

エチレンの重合法としては工業的には、1000気圧以上200°C前後の条件で行う高低法、とアルキルアルミニウムを触媒とし、40~100気圧、100~120°Cで行うチグラー法、酸化珪素-酸化アルミ-酸化クロムを触媒としてその中間位の条件で行う中圧法とあり我国でこの三者共工業化されているが、新しい重合法として興味あるものはチグラー法であろう。

それはエチレンは高温高压下でなければ重合しないものとそれまでは一般に信じられていたからである。それがチグラー等は、四塩化チタンを共触媒とした場合、アルキルアルミニウム(主にアルミニウムトリエチル)を始めとして、周期律I~III族の金属水素化合物や有機金属化合物が、可成りの低温低圧に於いても、エチレンを始め、α-オレフィンに対して重合開始作用のある事を発見して新しい頁を開いた。

### ポリプロピレン

プロピレンは燐酸等を触媒として低分子の重合物は得られていたが油状のもので勿論プラスチックではなかった。ナツタ等は前のチグラー触媒の四塩化チタンの代りに三塩化チタンを用い、分子が規則的に配列した。所謂アイソタクチックポリマーの重合に成功し、併せて工業化も完成、ブームを巻起した。

### 新型共重合樹脂

金属に於いても合金が特殊の性質を有する様に、プラスチックも、種々の単量体を共重合させて作ることにによりその欠点を消し長所をいかすことが出来る。そして関係方面ではこの研究が活発に行なわれている。昨年アメリカで“サイコロック”なるものが出現し話題を呼んだ。これは非常に卓越した性質を有するものであるが、その一つは、アクリルニトリル、ブタジエン、ステレン、の三共重合樹脂であるといわれている。今後三共重合、あるいはそれ以上の種類の共重合が活発化し実用化されるだろう。

### ポリエチレンポリプロピレン共重合樹脂

前に述べたポリエチレンポリプロピレンの共重合が完成し近く工業化に乗出すという。共重合の割合により種々の性質のものが得られるという。

### 常温硬化性不飽和ポリエステル

ポリエステル樹脂はアルキッド樹脂として可成り歴史も古

いが、常温硬化性のもは最近のことである。殊に我国では工業的には新しい。これは二重結合を持った二塩基酸、二価アルコールを縮合して液状のポリエステルを作り、これとビニール化合物（主としてスチロール）を混合し触媒を用いて低温で、この不飽和基（二重結合）の所にビニール化合物を架橋させて硬化させるものである。芯にガラス繊維を用いたガラス繊維強化プラスチックは、建築剤等の用途も広いし、硬化作業が容易なことから、自動車ボデー、ポート等に今後用途も益々広がるものと思われる。

#### 反応性合成樹脂

前のと一寸似ているが、これも反応性基を有するビニール化合物を重合させて線状高分子化合物を作り、更に反応基を利用して架橋或いは他の物と化合させて性質改良するという

樹脂である。我国でも或る大学に於いてこの研究を活発に行って居り、又アメリカでは一部工業的に作られているという。

以上断片的に書いてみたが、今も又新しいものが発見され実用化されているかも知れない。

過去に於いて繊維化学工業といえば繊維を作るための工業が主であった。併し現在に於いては合成繊維を作るための原料を得るための有機合成化学工業が重要な部分を占めるに至った。従ってこれの発展如何によっては既存の合成繊維工業が、相当影響を受けることすら考えなければならない訳である。

本稿を書くに当り、大平敏彦先生および化学繊維学教室隅田隆太郎先生始め諸先生に御意見御指導をたまわり厚く御礼申し上げます。

## 渡 米 雑 感

郡是製糸株式会社塚口工場長 千 葉 達 人

今回の渡米は急であつたので、とるものも取敢えず出発して仕舞つた。次回はこの経験を生かして最も効果的に旅行してみたいと思つている。靴下市況並びに生産状況の視察が目的であつたのであるが、これについては又の機会に譲るとして私の旅行中見たり感じたりした一般的な事柄について書いてみたい。

用件を忙しいのでニューヨークまでは一挙に飛んで仕舞つた。ジェット機の偉大な航空力で正味16時間でニューヨークに到着した時は文字通り全く夢としか思えなかつた。尚生れてからこの方一日は24時間とのみ信じ切っていたが、例の時差でホノルルに着いた時は午後6時である筈が夜中の11時であり、日付けも違つているし各地之等の変化にまごつかねばならなかつた。日本のように日の出、日の入りの時間は異つていても一日24時間の定った便利さは有難い事である。乗り心地は東海道線の特急以上であり、機内のサービスも格別であるが、強いて言えば日航機は日本語が通じる気安さがあり外国機も愛嬌たっぷりである。窓外の眺めは特筆すべきものであることは誰方も想像願えると思う。

地球外に飛び出した様な気持で青一色の空と海、白に輝く雲海、行けども行けども広々とした砂漠地帯、白雪のロッキーマウンテン、絨氈を敷きつめた様な緑地帯等は生きた地図を眺めるに似ている。

税関の検閲、スチューアデスの注意や説明等は皆目聞きとれないのは何としてでも残念だが、言葉の最後には必ずサンキューの一言、初心者の方々には何よりの慰めであり安心感を持たせ、不安の中にも力強い印象を与えてくれる。

アメリカに第一歩を踏入れて驚くことは自動車の発達であり、道路の整備である。ハイウェイの実態は60~90マイルのスピードであるから日本の特急列車の比でもない。老若男女を問わず運転する数知れぬ之等の自動車の列は壯観である。勿論立体式の道路であり塵一つない美しい芝生に包まれている。多くの説明は、この際省略するが過去何十年間日本の政治家、識者が之等をよく見たり聞いたりしている筈であるが日本の現状は余りにも不十分であるのには聊か憤りと共に不思議さまで感ぜずにはいられない。3年後の世界オリンピック

ク競技を期し少しでも之等を実現しようとする機運があるのはまあ好ましい事であり、一日も早く着手される様希望するのは私のみではあるまい。尚飛行機の発達も驚くべき事であり、国内線もジェット機等を利用して飛び廻つたが、20年前の旅行者を思えば何十倍かの能率を挙げているであろう。その反面、汽車、電車は如何にも斜陽事業であり消えてなくなるかも知れないかと思わしめるものがある。

土、日曜日の休日制度の良否は別として、経済的に恵まれた国柄であるだけに、家族そろって自由を十分に喜び楽しんでいる。殊に日曜礼拝の教会通いは宗教的情操感化の基礎であり、幼少時より通いつめた長い歴史を持つだけに特に日本人も学ばねばならぬ問題である。

一般婦人労働者は既婚の婦人であるのも我々には異様に感じた。デパートの売り子も同様であり日本のように未婚の若い女性は殆んど見当らなかつた。一般には結婚前に就職し（主として事務員）結婚と同時に家庭に在り、子供が成長して手から離れると再び職につき10年20年と働くのが普通の様子である。工場の労働者は十数マイルの範囲内から自動車で通勤している。日本で云うような福利施設は何もない。大半は食事時間も自家用車で、帰宅している。日本では一寸見られないような大型の自動車を自分一人で運転するのをみると一寸腹も立つが、自転車であると思えば別に变りない。勿論工場の周囲は広々とした自動車のパーキング場である。

各都市に沢山のデパートがあり亦多くの人々が入り出しているのも日本と別に变りはない。処変れば品変るの言葉通り品物や並べ方も変つていることは当然で、彼等の生活の一端をうかがう事が出来る気もする。郊外にはスーパーマーケット又は之に類するチェン・ストアーが之れ亦沢山ある。前述の通り自家用車の発達で遠く郊外に買物に出掛けているのは一つにはドライブであり楽しみでもあるので予想外の発達をしている。而かも自動車を持ち帰るので一週間分位を買るのが普通と聞く。之も亦周囲は、パーキングであり、或る所では自動車7000台をパークする事が出来ると説明して呉れた。

何処へ行ってもメイドイン・ジャパンの品物が目につくのも国外に出て驚く一つであろう。摩天楼、エンパイヤーステ

ートビルの展望室の土産売場に見られるエンパイヤービル型の置物を始め、ナイヤガラ瀑布にも、ディズニーランドの子供の土産物にも、各地にある空港の売店は勿論、街々を飾る店先の品物等数多く日本製品が見られる。日本内地にも舶来品はあるにはあるが一般には高級高価なものも多く、外地の日本製品は実用向のものであり安いものである。東貨排斥の歴史は長く、先日新聞にも星条旗は米国人の魂であるから日本製を買うなという運動を起した記事が出ていたが、今尚日本の品物恐れている。

池田総理は所得倍増論を打ち出している。大変よいことだ然しこの事が物価上昇になつては反って悪い結果にならぬだろうか、所得が多くなつても能率の増加で吸収し物価を上げない工夫が必要だ。海外への輸出の減少するような事があつたら日本のような資源の乏しい国はどうなるかは明白だ、それだけでなく貿易の自由化と舶来崇拜思想等から逆転をも考えられる今日尚更である。

戦争花嫁にも幾人か会つたが、共稼ぎで働いており相当の取入を得ている。日本円に換算すれば驚く大金であるが、大和撫子型でつましく貯金はしているらしいが中流以下の生活を保つ程度である。或る婦人は矢張り働かねば食えないと申していた。

関係工場は十数ヶ工場見学した。商社や関係機関も十数ヶ所を訪れることが出来た。非常に親切に案内や説明を受けることが出来た事は感謝に堪えない。高能率、高賃金、低コストの実態を幾分なりとも伺い知る事が出来た。機械化、合理

化は申すまでもなく物事を簡単にいかにも自然に考へているのは、国民性から来る、ものの割り切り方であろう。事務係の人でも勤務時間中は机を離れず湯茶のサービスもない。日本は余りにも加剰サービスである。どの机上にも用意されたタイプライターはABC26文字の組合せで済むのも、うらやましい事である。建物にも新旧の別はあるが、大体廊下を持たないのも無駄がない。尚建物の周囲には大体扉もなく四六時中警備しなければならぬ日本の実態とは大きな開きでもある。受付係は女子一人で、大きな会社でも玄関は案内小さく事務をとり乍ら電話連絡で用件をさばっている。

国際空航羽田はニューヨーク郊外の幾つかの空航のどの一つにも及ばない淋しさであるが、その内により盛んになる事であろう。現在ニューヨーク空航には日本人が日に200人も出入している。盛んな事である。海外に学ぶべきものが多いという証拠でもある。同窓生各位も次々に出掛られるようお薦めする。気軽に東京や大阪にでも行って来る位いな気持で行くべきである。百聞は一見にしかずを身を持って味つて来た私のあることを承知載きたい。

風水害御見舞申し上げます

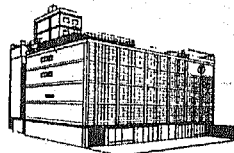
9月16日各地に多大の被害をのこした第2室戸台風の風水害御見舞申し上げます。

災害の甚しかった地方の支会長には御見舞状を差し上げましたが、被害をうけた会員の一日も早く復興いたされ御健勝の程衷心より御祈り申し上げます。

信和紡績株式会社

取締役社長 馬場友清

長野県小県郡塩田町大字八木沢  
電話(塩田)630番



皆様の百貨店

上田・中央

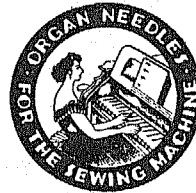


信州みやげに

信州

武田味噌

電話(上田)2280  
2281



オルガン

ミシン針

長野県小県郡塩田町

株式会社 増島製針所

TEL 塩田 650

## 支会だより

### 千曲会愛媛支会総会

毎年の暑中に総会を松山で開催していた。それは松山が愛媛第一の都会であり、四国唯一の温泉郷でもあって、最適の環境にもよるが、同地には宮崎清治氏（大正10年卒）が観光旅館宝荘を営んでおられるので同氏の非常な御厚意によって盛大に開催出来たからである。今年は幹事の方の都合で8月の開催が出来ず9月になってしまった。それに趣向を変えて観光の意味も兼ねて開催することとして、大洲よりバスにて1時間遊覧船にて40分のところ、坂石町ますや荘で開催した。

9月10日午前10時40分大洲駅発のバスにて出発、肱川の沿岸を河づたいに登ること約1時間で鹿の川につく、途中深緑の山、豊富な水、ところどころの瀬口では、鮎釣りの人も多く見られる。早魃続きの天候で畑作など秋の種蒔がおくれて心配されていたのに夕立でよい雨だところぶ声も車内であったが、今日の催しには困った天候だと心配していたが幸に、鹿の川に着く頃には小降りとなった。船の出るまでの時間を利用して、発電所を見る。係員の説明により、近代設備を見るがほとんど機械化されていて、人数は非常に少い。旧式の発電所の10分の1の人数だそうであるが、やはり日曜、祭日もなく日夜交代で勤務している。状況を見ると、なに気なく使用している電気にもこの様な設備と人々の努力によって、私達日常の生活に必需的なものとして使用しているのだと新に感謝した次第である。12時50分、発電所の直ぐ裏からでる、遊覧船「さざなみ」に乗る。この人造湖鹿の川ダムは4年の日数を要した様で、その間の関係者の苦勞は大きかった事と思われるが、現在灌溉用水として下流の農作物に与える恩恵、発電事業による電力の供給、特に肱川の氾濫による毎年の水害防止はどんなにか、大きい効果を果たしている。それに観光地として、この湖を中心として開拓されている。早魃続きで最低水位だと云うことであったが、水は豊富であり、周囲の緑とよく調和し、のぼること40分で坂石町河成につく。観光地としては現在設備中であって充分とは言えないが4～5年もすれば、手頃な観光地として多くの人の集まる場

所となろうと思った。

同地の近くの御出身である薬師神氏（昭10年系）が前日から、湖水でとれた魚で料理してもらうために、色々と手配して頂いたため、会場はこの地方第一の荘設備のよい、ますや、料理は湖水でとれた大きな鮎、鯉、この地方でなければというようなもののみ、サービスは鹿の川ダム美人、昼食時をだいぶ過ぎていたので、先づ腹ごしらえと、飲み方から始める。涼風と共に、ビールの数も相当運ばれた頃を見て、総会の議題について話し合う、その内主な事項について記すことにする。

1. 50周年記念事業資金の報告 会員数及び卒業年次を基準にして決定された基準 目標額、最初は懸念されたが、基準目標額を100%達成したことは、ただ会員諸兄の母校愛によるものである。額少くとも、熱意に於いては他の大支会とも変りないものと思う。
2. 千曲会費の納入についてであるが、納入成績が不良で以前にもこの事情について検討されたが、それにはやはり理由があることで、この事情については本会えもお願いしてあるが、今年は50周年記念資金の募集もすんだことであるから、会費の納入成績の向上を図ることにする。幹事の増員もお願いして支会が主体となって会費の納入を図りたい。
3. その他として、集りの悪い原因について種々検討されたが、今年は時期的に多忙な時でもあったし又会場が不便な地だとの印象が強かったのではないかと思われるがその他改善すべき点もあるので、次回は多数集り得るような、時期と、場所を選定したい。又会の運用の方法についても一考を要するものと思う。

以上が総会の主な要点であるが、雑談の中に話された内川支会長の話は、最近県内の最も長い期間ストを継続したレコードとして新聞紙上に報導された。争議を県労働委員長として調定され、争議を解決された話は最近の働争議の動行を知る上からも亦世相を知る点からも有意義であった。最近流行の夏期何々大学講座と云って各地で開催されている会に行きたくて聞くなり支会総会で聞く方がよいと思ったことだ。集る人は少くとも、種々の職場にいる人々であり、年層からも異り同窓会でなければこの様な会合はもてな

いと思う。それに話している人は別に珍しい話ではないかも知れぬが、聞くものにとっては非常に参考となることが多い。同窓会のよき一面であろう。色々話しはつきないが出発の自動車の時間に間に合うように会を終る。（工藤記）

### 金子光氏理学博士授与

金子光氏（暁34回卒）、（北海道大学助教授）は、「アネトールの生合成に関する研究」が昭和35年10月10日、同理学部教授会を通過し、理学博士の学位を授与された。現在、同学、医学部薬学科に勤務。

論文の詳細は追って紹介する。

## 会費を納めて下さい

本会員相互の教養連絡向上の唯一の機関誌である千曲会報の発行は他の同窓会には見られない卓越した事業であります。最近紙代送料の値上げによりこの会計も窮迫しておりますので会員各位の会費納入につき格段の御協力を願いたい。会員各位の協力如何によっては事業に重大な措置をとらざるを得ないと思ひます。

追而各支会の納入状況については支会長宛に通知し集金方御願ひしてあります。

秋冷の候、皆様には益々御清祥の御事とお慶び申し上げます。

さて私事2年間の米国ミンガン大学での留学を終り、九月六日横浜着の大坂商船ありぞな丸にて帰国いたしました。ミンガン大学は自動車工業の中心都市デトロイトの西南60Kmのアンアーバーにあり、原子炉、計算センターその他の大きな設備が広く研究者、学生に開放されており、研究室では夜間まで熱心な研究が行われているのに大いに刺戟されました。

私は化学教室で電解質溶液の電気伝導度及びウィーン効果についての研究をいたしました。一応の成果をまとめて帰国することができましたのはひとえに皆様のおかげと深く感謝いたしております。

今後この経験をいかして仕事をしてゆきたいと存じますが、何卒よろしく御指導御鞭撻の程を御願ひ申し上げます。

信州大学助教授 横井政時  
繊維学部一般教育

会 員 動 静

石井 彦七 糸15 東 京 日綿実業(株)東京支店食品部長(東京中野区日本橋室町4の5)

松崎 滋 糸29 神奈川 プリンス自動車工業(株)精機事業部営業課(東京都三鷹市上連雀990)(住)横浜市保土ヶ谷南希望ヶ丘97

山田 次男 糸26 諏 訪 岡谷市長地区東堀  
池田正五郎 蚕11 北海道 北海道農業改良普及協会事務局(札幌市北三条西5丁目)(住)札幌市北十六条東6丁目NHK小諸通信部(小諸市荒町2792)

高橋 俊雄 糸38 北佐久 長野県蚕業試験場(長野市岡田町140)(住)長野県上水内郡三水村普光寺686)

大野 孝治 蚕21 山 陽 岐阜県蚕業試験場(岐阜県稲葉郡那加町桜町一丁目)

中島 章夫 学蚕3 北 信 神戸大学教授工学部工業化学教室(神戸市灘区六甲台町1)

石坂 尊雄 学蚕7 岐 阜 根岸商店(副蚕糸貿易商)(横浜市中区流之上77(電)本局(2)7617)

奥 正己 旧職 兵 庫 上田市三好町1丁目560

根岸 市郎 紡20 神奈川 篠ノ井市立塩崎中学校 長野市大字小柴見245

依田 静夫 蚕22 上 小 丸子警報器(株)(丸子町)  
佐藤 忠夫 化7 北 信 東洋高圧工業(株)中央研究所(住)横浜市戸塚区公田町150

長谷川 弘 化7 上 小 東洋レーヨン(株)大阪工場  
小林 啓 化5 東 京 (大阪府高槻市新京町291ノ84)

小林 博美 化3 近 畿 日本レイヨン(株)本社ナイロン加工部(大阪市東区今橋3ノ5)

小山 直吉 学化4 近 畿 長野県須坂西高校(須坂市)

玉井 勇 学化3 飯 高 新潟県刈羽郡小国町役場(刈羽郡小国町大字横沢)  
小林 忠行 蚕別2 越 佐 横濱生糸取引所常務理事(横濱市中区山下町1ジルクセンター内)

梅沢万次郎 糸7 神奈川 勤務先従前通り(横濱市西区霞ヶ丘33糸検査  
近藤 成敏 学糸2 神奈川 (住)横濱市中区山下町1ジルクセンター内(勤前の通り)

月岡 恒男 学糸4 神奈川 神奈川県労働部労働課(横濱市)

根津 健 糸18 神奈川 片倉工業KK横浜出張所長(横濱市中区本町4ノ38)

馬場 武 糸18 神奈川 日薬化学工業(株)(藤市大字藤町前谷350 電(189)511)

堀内登志男 学紡1 埼 玉 三菱レーヨン(株)東京都中央区京橋2ノ8)

林 郁男 学紡6 東 京 三菱レイヨンKK(東京都中央区京橋2ノ8)(住)前通り

和田 耕治 学糸8 東 京 神楽生糸KK石岡工場(茨城県石岡市)石岡市国分神楽社宅

宮崎 貞吉 糸38 茨 城 川崎市上丸子天神町363ノ2

半田 辰猪 糸13 神奈川 東邦観光株式会社(東京都板橋区舟渡町1の15)

藤田志津子 別8 東 京 信濃絹糸紡績(株)(丸子町)

土屋 修 化9 上 小 国策パルプ(株)本社(住)

野村 忠義 化9 東 京

荻原 孝夫 化9 神奈川 東京都渋谷区笹塚町1の26国策パルプ笹塚アパート

宮下 明治 学蚕5 上 小 横濱市中区小港町小港団地6の507

田中 重臣 学糸2 北 信 信州大学繊維学部付属農場(上田市)

中村 健治 農4 千 葉 農林省長野統計調査事務所(長野市)

桑原 滋 学化6 越 佐 千葉県東葛飾郡流山町白小金新田四人堀1127

中沢 春美 学化6 越 佐 新潟県繊維工業試験場(見付市本町)

中沢 孝 学化6 東 京 (株)川捨工場(新潟県五泉市)

並木 岩 化9 大 阪 帝国人造絹糸(株)東京研究所(東京都豊田市日野)

関田 章 化9 熊 本 帝国人造絹糸本社(株)(尾ヶ崎市塚口梅町6丁目)

新海 恒久 学化3 愛 知 興国人絹パルプ(株)八代工場(八代市興国町興人アパート1~2A)

池田 京二 化9 北 信 三菱レーヨン(株)名古屋工場(名古屋市中区栄三丁目)

久保 正人 学化5 山 陽 三菱レーヨン希望ヶ丘1三菱レーヨン希望ヶ丘寮)

木次 国利 学化4 東 京 中野高等学校(住)長野市安茂里526 香花合団地86号)

寺沢 清 学化2 東 京 帝国人絹(株)岩国工場(岩国市今津美ノ越帝人錦寮)

西川 悌雄 学化6 三 丹 大機ゴム(株)東京工場(東京都地区東十条6ノ11関根方)

宮崎 敏夫 学化8 宮 崎 (株)日立製作所電機事業部ブランド部東京都千代田区神田美工代町26羽衣ビル(住)文京区駒込林町29 静林荘

竹花 亮一 学化2 富 山 日本レイヨン(株)宇治工場(宇治市琵琶町16 日レ・アパート)

田中 秀雄 学化9 福 島 旭化成工業(株)延岡工場(延岡市北新小路6ノ3 旭化成第2恒安寮)

塩沢 恵治 学化9 東 京 興羽紡績(株)庄川工場試験課(富山県射水郡大門町)

川上 博美 学化9 東 京 日東紡績(株)富久山工場(福島県安積郡富久山町福原)

小川原祥興 学化9 東 京 日本染色(株)赤羽工場(東京都北区王子2ノ6 日本染色王子寮)

伊藤 稷 学化8 東 京 丸紅飯田(住)(埼玉県北足立郡足立町志木丸紅飯田志木寮329号室)

片桐 康 学化4 愛 知 安宅産業(株)(住)東京都武蔵野市境990 安宅産業武蔵野寮305号室)

善積 寛明 学化9 栃 木 特許庁(住)東京都世田谷区大原町1063 桂荘)

北原 匡 学化8 三 重 東洋レーヨン(株)技術研究部名古屋研究室(名古屋市港区大江町9ノ1(住)名古屋市南区四条町1の64 東レ熱田寮内)

高沢 弘昭 学化8 近 畿 東洋ナイロン(株)(住)足利市山川町宮先通り 東洋ナイロン山川寮)

野上 勲 学化9 近 畿 平田紡績(株)(住)三重県四日市市茂福2155平田紡寮)

同 上 都製糸(株)(京都府綾部市青野町郡是本社男子寮)

### 母校ニュース

**会田源作教授の学位論文通過する**  
 繊維工業化学科の会田源作先生は“家蚕絹糸と天蚕絹糸の染色性の比較研究”について学位論文を九州大学農学部農芸化学科に提出中のところ9月27日教授会を通過し農学博士の栄誉を受けられることになった。詳細は追って掲載の予定である。

**横井政時助教授帰国**  
 ミシガン大学において研究中であった横井助教授は多大の成果を収め無事帰国され9月11日より出勤学内一般教育化学研究室に勤務されている。

**小林勝氏教務員に**  
 岩手県技師として蚕業指導所に勤務しておった小林勝氏(学蚕8)は7月1日付母校教務員に発令され山口研究室に勤務することになった。

**弓道場地鎮祭行わる**  
 既設弓道場はこのたび繊維機械学科教



室の建設に伴い、場所を変更することに

なり、大学本部の好意ある配慮によって一定額の献金を条件として新に図書館の裏、千曲会館東隣に、射場8,75坪あづち6坪の立派な道場を建設することになり9月14日厳粛に地鎮祭が行われた。

**職員レクリエーション大会開催**  
 恒例の学内職員レクリエーション大会が9月29日午前9時より庭球外5種目、囲碁外3種目にわたって競技が行われた

### 本 会 記 事

**蚕糸業問題研究会開催**  
 上田繊維科学振興会主催で9月2日母校第1会議室において学内関係職員等30名参集し、さきの第8回国際絹業大会に出席し欧米各国の繊維事情を視察帰国された参議員議員小山邦太郎氏、本会理事笠原正己両氏の帰朝談を中心として蚕糸業問題について研究会が催された。

**小林運美副理事長海外出張**  
 本会副理事長小林運美氏(糸16)は日本ボーイスカウト連盟事務局長として9月13日羽田空港発にて大会に出席のため海外出張の途について盲萩原理事長に通知があった。なお帰国は10月25日の予定である。

**学内理事会開催**  
 9月20日学内理事会開催次の事項を協議決定した。

- 1, 台風18号の被害の甚しかった地方の支会長に風水害見舞状を出すこと
- 2, 部分林の手入除伐について

菅平の部分林の管理について雑木手入除伐の申請をすること。本会理事学内管理係員が9月29日現地状況を視察すること。

3, 会費納入率の向上について  
 納入率が極めて低調であるので支会長に最近の納入状況を附記して促進依頼状を出すこと。

**針塚先生追想録編集委員会開催**  
 針塚先生追想録刊行について進捗するため編集委員会が9月27日千曲会館に開催された。なお編集担当の鈴木教吾氏は9月25日來会針塚先生伝記の執筆および会員より寄稿された80余の追想録の整理に着手された。

### 50周年記念事業募金領収報告

上小支会	1,000円	村井 三郎(学化3)	石井 貞(農5)
北信支会	5,000円	湯浅 文雄(糸17)	3,000円 中島 満展(紡20)
	1,000円	井出喜四男(紡21)	近藤 久男(蚕別6)
		金井 利雄(紡26)	小野 貞雄(紡23)
		滝沢 久雄(農4)	
竜川支会	5,000円	小松忠一郎(紡3)	1,000円 小沢 正一(糸19)
		小計	23,000円
		累計	5,883,105円

**コロナ100年記念討論会**  
 来る10月12~14日の3日間母校講堂において、日本化学会主催コロナ100年記念討論会が開催されます。日本化学会のコロナ化学討論会としては第14回目に当りますが本年はその昔グラムがコロイド学を創始して以来ちょうど100年目に当りますので、国際的にもコロナ100年祭を行うこととなり、わが国日本化学会でもこれを記念して今回はとくにコロナ100年記念討論会とすることになりそれが母校で行われることになったわけです。  
 討論の主題は第1部「微粒子の分散状態」第2部「界面現象と工業」で、飯島・玉虫・金丸の各先生方を始め、全国各大学研究所の著名の学者、業界の方々が多数参集し、かつばつな討論が行われます。会員各位の御来聴をお待ちしています。(詳細は「化学と工業」10月号、「油化学」9月号「コロナと界面活性剤」9月号)

**第10回レオロジー討論会**  
 来る10月16~18日の3日間母校講堂において第10回レオロジー討論会が開催されます。討論テーマは「分散系のレオロジーと諸物性」、「繊維構造とレオロジー」および「接着のレオロジー」の3部門で、内外の学者20名余の討論講演があります。特に繊維部門ではアメリカNBSのR. S. Marvin 博士の約一時間にわたる講演が予定されております。会員各位の御参加をお待ちしております。(詳細は「化学と工業」9月号「高分子」8月号)  
**編集室より**  
 10月は明春卒業学生の就職決定開始期に既に注文に応じきれない好調である。  
 人手不足とはどこでもよく耳にすることであるが一面レジャーブームと云う一寸納得出来ないが忙中閑を得てスポーツに、余技に人生をエンジョイすることは大切である。会員皆様自重自愛され益々活躍のほどお祈りします。  
 編集委員 小林 尚一 香山 清和 一之瀬匡典  
 小山 定 柳沢 幸男 白井 要範  
 西村 善次 大屋 正尚

<p><b>塩田毛糸紡績株式会社</b></p> <p>取締役社長 中田 正 人</p> <p>長野県小県郡塩田町大字八木沢</p> <p>T E L (塩 田) 5 6 4</p>	<p>特許・実用新案・意匠・商標 出願・訴訟・鑑定</p> <p><b>浜 特 許 事 務 所</b></p> <p>東京都芝新橋1の20 堤第一ビル四階 東京(591)-0764・0765</p> <p>弁理士 浜 香 三 弁護士 中 猪 之 助</p>
---	--